おおせっからんど便り

NPO 法人おおせっからんど
第 30 号　2023 年 12 月

オオセッカ　撮影；宮彰男

寄稿：仏沼と私

上田恵介（公益財団法人日本野鳥の会会長／立教大学名誉教授）

今年久しぶりにオオセッカのカウント調査に参加させていただいた。前回参加したのは 2002 年だから、ほぼ 20 年ぶりである。今回も大勢の地元の方々とお話できたし、津曲理事長や宮さん、蛯名さん、関下さんにも久しぶりにお会いできた。弘前大学や北里大学の元気な学生たちとも話すことができた。地元のいろんな人々を巻き込んでのカウント調査は素晴らしい野外教育だと思う。

湿地の環境は脆弱である。そして遷移の進行も速い。今回も前に来た時よりもコジュリンの数が少ないように感じたし、一方でウズラの生息数が増えているなど、確実に変化が起こっているなと思う。その意味でオオセッカのカウントは、将来にきちんとした科学的なデータを残していくという学術的な重要性も合わせ持っている。

仏沼のような湿地環境がまとまって残っているのは、国内でも他に例がない。日本野鳥の会は、1992 年に全国の会員や支持者に呼びかけてバードソンを開催し、集まった募金で仏沼の干拓地内のヨシ原を小面積ではあるものの買いとってサンクチュアリとした。この小さな保護区を当会が所有していることで、仏沼全体の保全を促す大きな効果があると思う。

今後とも日本野鳥の会はおおせっからんどのみなさんと力を合わせて、この貴重な湿地環境を守っていきたいと考えている。

上田恵介
1950 年大阪府枚方市生まれ。理学博士。動物生態学者、鳥類学者。
立教大学理学部生命理学科教授、日本動物行動学会会長、日本鳥学会会長を歴任。現在、公益財団法人日本野鳥の会会長（第 6 代）、立教大学名誉教授。
著書に『鳥はなぜ集まる？――群れの行動生態学』（東京化学同人）、『行動生物学辞典』（共編、東京化学同人）、『野外鳥類学を楽しむ』（編著、海遊舎）などがある。

［特集］おおせっからんど・仏沼の乾燥化と対策

仏沼が乾燥している？　現況と対策

仏沼は、もともとは小川原湖につながるラグーン（潟湖）でした。同地は 1963 年に始まった県の干拓事業によって農地になる計画だったのですが、農地化計画が一時中止されて農地は一部分を占めるに止まり、やがて一帯はヨシを優占種とする湿原になりました。

また、同地の動植物の多様性と豊富さ、そして絶滅危惧種であるオオセッカなど希少動植物が多数生息することが評価され、1985 年にラムサール条約登録湿地に指定されました。

しかし仏沼は近年乾燥化が進行しており、オオセッカをはじめとする動植物の生育環境の悪化が懸念されています。乾燥化は特に北部と北東部において 2016 年頃より進行してきました（図１）。乾燥化が進むと、まず湿地に住むトンボがいなくなりました。植生も変化し、スゲの群落にヒメシオンが侵入してきて（図２）、ツルマメとヤブマメという蔓性の植物がヨシを覆う箇所も増えてきました。（図３）。スゲやヨシは野鳥の繁殖場所として重要であり、これらが衰退すると仏沼の生態系に重大な影響を及ぼすため、乾燥化への対策が急がれます。

（宮彰男）

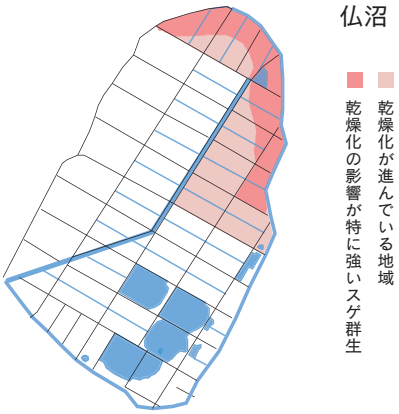

図１　乾燥化の範囲

図２　スゲ群落にヒメシオンが群生

図３　蔓性の植物かヨシを覆ってしまっている。

乾燥化対策：水路を堰き止めるダムづくり

仏沼で近年進行している乾燥化を食い止める方法の一案として、今まで乾燥化が指摘されている地域から流れ出ていた水を食い止められるか、また水をためることが出来るかどうかを確かめるため、水路の排水口周辺部分に土嚢を積み上げて水路を堰き止めるダムをつくりました。

工事は 5 月 20 日と 5 月 28 日の 2 日間、おおせっからんど会員 16 名が集まって土嚢づくりからダムの製作まで行い、10 月 9 日にも追加工事を行いました。

11 月現在、雨水だけでもダムの周辺に水が貯まっており、1 区画 200m × 250 m内の水位を上げる効果はかなりあったと思われます。なお、排水パイプは機能しているので、水が貯まりすぎた場合は排出も可能であり、水位を調整できるように工夫しています。

現時点での結論として、水路堰き止めダムは、乾燥化対策の有効な方法のひとつだとわかりました。

（宮彰男）

ダム設置工事の様子

ダム工事後の状況。
周囲に水が溜まり、湿原内部の水位が上昇している。

2023 年度オオセッカ一斉カウント調査結果

2023 年一斉調査参加者の皆さん

仏沼における生息鳥類個体数調査（オオセッカ一斉カウント）は、①仏沼のオオセッカの個体数と分布の変動と、②繁殖期の鳥類相、特に絶滅危惧種の生息状況を明らかにすることを目的に、1982 年から断続的に、2003 年からは継続的に実施している、当法人の最も重要な活動の 1 つです。仏沼を 14 調査区に分け、当法人会員を中心とした数名の調査チームが各担当区をくまなく歩き、確認できた全種全羽を記録して集計します。

6 月最後の日曜日に開催する恒例イベントで、前夜祭も含めて多くの方々が遠方からも参加されます。今年度は 6 月 25 日の早朝に実施し、天候にも恵まれて無事に終えることができました。日本野鳥の会の上田恵介会長をはじめ、日本野鳥の会青森県支部 · 北里大学自然界部 · 三沢市環境衛生課 · 環境省などから計 57 名がご参加くださいました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

調査の結果、44 種の鳥類が確認され、そのうち環境省や青森県のレッドリストに掲載されているのはウズラ · サンカノゴイ · クイナ · オオジシギ · チュウヒ · オオセッカ · コジュリンなど 10 種でした。オオセッカは雄 397 羽が確認され、雌も同数程度生息すると考えられるため、実際の個体数は 794 羽と推定されました。

仏沼のオオセッカは、調査を初めて実施した 1982 年（雄 79 羽）から徐々に増加し、2011 年に過去最多（雄 690 羽）となり、その後は減少傾向が続いています。この減少の理由ははっきりとは分かっていませんが、①繁殖地（仏沼）、②渡りルート（東北地方と関東地方の太平洋沿岸）、③越冬地（東北地方南部以南）のいずれかで湿性草原環境が悪化しているためと考えられます。①においては、仏沼の特別保護地区（ラムサール指定区域）の北半分で湿性草原環境の乾燥化が 2016 年から進み、繁殖活動への悪影響が懸念されています。

（高橋雅雄）

三沢市の小学生仏沼自然観察会

岡三沢小学校、上久保小学校の 5 年生、おおぞら小学校の 3 年生を課外授業の一環として、仏沼の自然観察に案内しました。子供たちの声を少し紹介します。「仏沼の絶滅しそうなオオセッカや野生の鳥を優しく見守りたいと思いました」「頬が赤い鳥ホオアカが可愛かったし、コジュリンが見れてうれしかった」「ガムシはおなかに空気を入れて泳ぐことを知りました」。自然との触れ合いが子供たちにとって新鮮な感動となったようです。

子どもたちの感想文より

［実施実績］

◆三沢市立岡三沢小学校「仏沼自然観察学習」
2023 年 6 月 19 日、27 日、30 日

◆三沢市立上久保小学校「校外学習仏沼散策」
2023 年 6 月 26 日、28 日

◆三沢市立おおぞら小学校「（三沢市の宝仏沼）観察会」
2023 年 7 月 13 日

（津曲隆信）

教えて！野鳥撮影！①　ーピント合わせー

基本の「き」。鳥にピントを合わせる基本を習得したい！

カメラ超初心者のそのみんが、のりのり先生からカメラの基本と撮影のコツを教わる紙面写真講座。上達をお楽しみに ...!!

ピントを合わせるオートフォーカスの機能と設定

のりのり：被写体（野鳥）にピントを自動的に合わせる機能をオートフォーカス（以下 "AF"）といいます。AF 設定は大きく「AF 動作」「AF エリア」の２つを設定することで被写体にあったピント合わせを自動的に行ってくれます。「AF 動作」は、①シャッターボタンを押したときのピントを維持、②シャッターボタンを押したときの被写体のピントを維持、の２つがあります。野鳥は動くので②に設定します（Canon ではサーボ AF と言います）。「AF エリア」はピントを合わせる範囲の設定のことで種類が多いのですが、動きの少ない小さな被写体にジャストピントを狙うのであれば「1 点 AF」、動きが大きな被写体であれば「領域拡大 AF」や「ゾーン AF」に設定します。

そのみん:枝の上にたたずんでいるカワセミは、「1 点 AF」が良さそうですね。私のカメラには、瞳フォーカスの機能もありました。

のりのり：最近の AF 機能として、「検出する被写体（人物、動物、乗り物）」を設定出来たり、人や動物の瞳検出機能が搭載されている機種もありますよ。また、被写体は、ファインダー中央に来るように撮影するのが「基本」です。

DPP で、自分の写真をチェック！より良い設定は？

のりのり：Canon のカメラを使っているなら、Canon 専用画像処理アプリ「Degital Photo Professional」で写真を見てみましょう。AF フレームや Exif 情報を表示させ、ピントが当たっている場所や、自分の設定をデータで確認。見ると「サーボ AF 特性」の設定が Case2「障害物が入るときや被写体が AF フレームから外れやすいとき」になっていますね。

そのみん：撮りたい状況と異なっていますね。そんな設定があったとは。

のりのり：Case1（汎用性の高い基本的な設定）が適しています。また、手ブレ補正機能があるカメラなら、「入」にするのもお忘れなく ...。

今日の題材　カワセミ　花切川にて
CanonEOS R10・RF100-400mm
f 値 8.0・SS 1/1250・ISO1000
焦点は瞳ではなく、カワセミの少し手前のようだ

のりのり先生のお手本

薄曇りの午前 9 時頃、風も穏やかでそれほど暗くないところで佇んでいるカワセミを撮影するのであれば、SS を 1/800、f 値を 8.0、ISO を 800 に設定すれば悪い写真（粒子が荒れてピントがボケてブレている）にはなりません。

お知らせ

■（公財）日本野鳥の会とおおせっからんど、仏沼野鳥保護区等の管理に関する契約を締結

2023 年 7 月、日本野鳥の会とおおせっからんどは、表題にある契約を締結しました。これにより、仏沼野鳥保護区及び小川原湖畔の観察ステーション（おおせっからんどが建設し、日本野鳥の会に寄贈）を、今後ともおおせっからんどが行うさまざまな環境保全管理活動で活用できることとなりました。

現在、地元三沢市や土地改良区等の了解のもと仏沼乾燥化対策を進めていますが、地元小中学生観察会やオオセッカ一斉調査といった各活動の拠点として、本契約に含まれる観察ステーション等の積極的活用を今後行って参ります。

■「おおせっからんど仏沼パネル展　～仏沼で記録された絶滅危惧種～」開催終了

2023 年 11 月 18 日（土）～ 26 日（日）
青森県立三沢航空科学館
ご来場いただきました皆さま、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

NPO 法人おおせっからんど　会員募集中

あなたもおおせっからんどを支える仲間になりませんか？　左下の問合せ先からお申込みください。
特典：会報の送付・E メールか LINE でのイベント情報提供
年会費：サポート会員 2000 円　正会員 5000 円

制作発行：特定非営利活動法人おおせっからんど
〒 031-0823 青森県八戸市湊高台三丁目 15 番 5 号
Mail: mori.degawa@gmail.com
Web: http://www.oosekka.com
編集：蟹沢格　紙面デザイン：大澤苑美

編集後記：このたび編集を担当することになりました。今後掲載してほしい鳥の記事や関連情報などありましたら、事務局までご一報頂けますと幸いです。（蟹沢）／紙面デザインと、私のへたっぴ写真を題材にした紙面写真講座コラムを担当します。久しぶりの会報発行、盛りだくさんの内容になりました。（大澤）